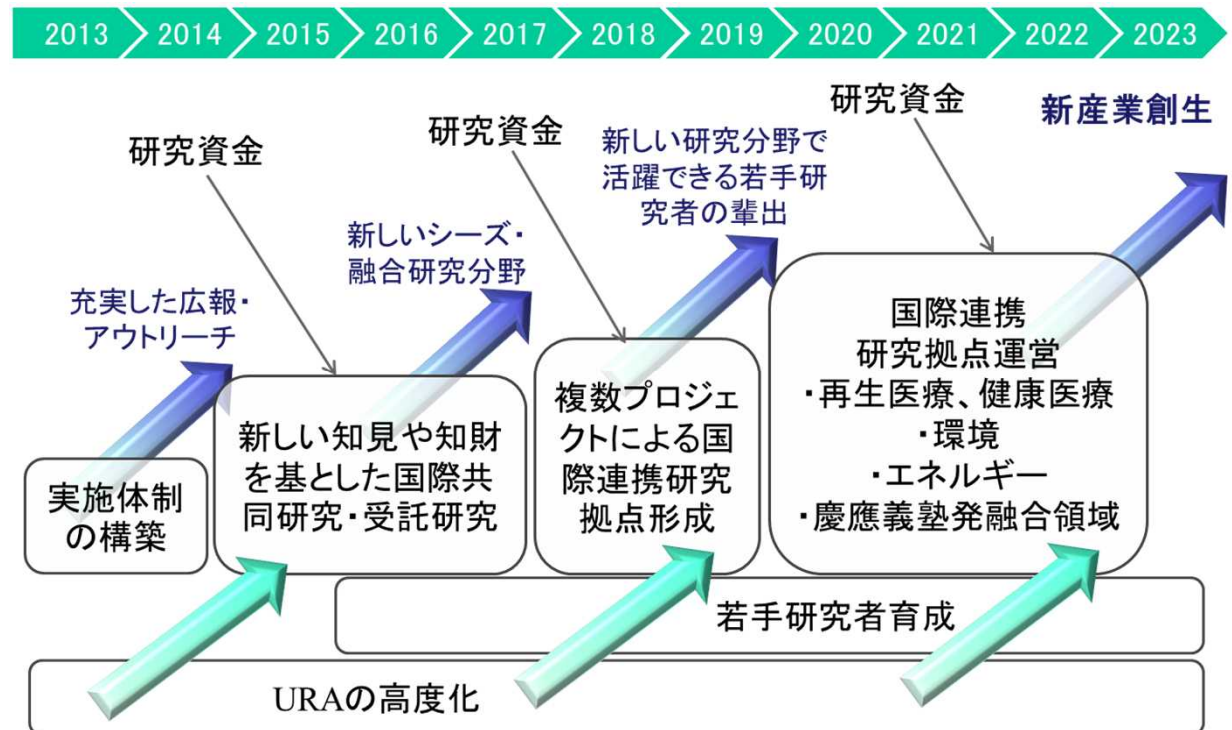


◎慶應義塾の研究活動を飛躍的に発展させるための5本の柱

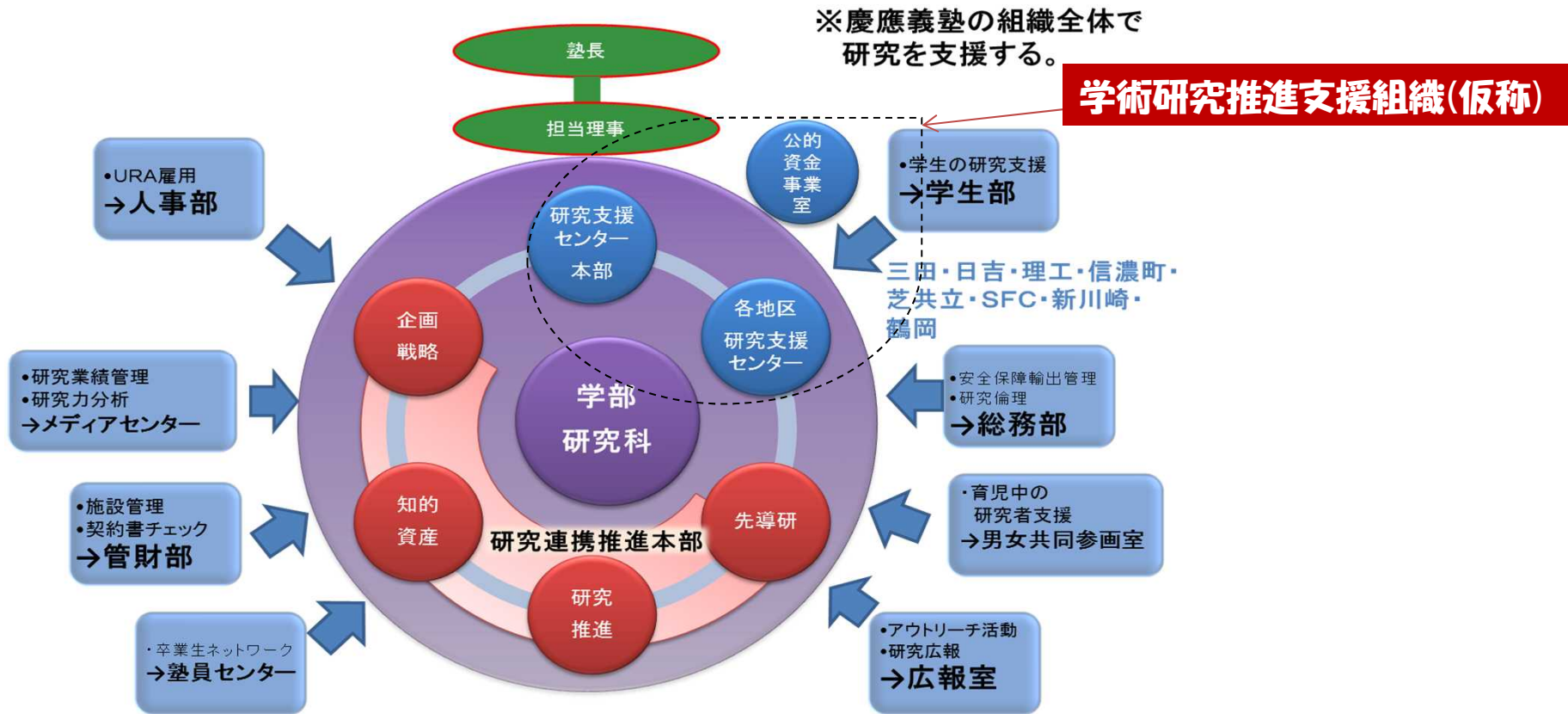
- (1) 教員の研究時間の確保
- (2) 今日を生きる研究と明日を生きる研究を共に支援
- (3) 大学内の融合研究の支援
- (4) 国際共同研究の支援
- (5) 次代の高度研究者の育成・人事制度改革や組織改編の実行

### 慶應義塾が計画する 研究力強化5本柱の実現方策

- 1. 人事制度改革や組織改編の実行
- 2. 慶應義塾型URA群の体制整備
- 3. URA群の確保、育成と活用
- 4. 個人的研究から国際連携を伴う拠点型共同研究へと発展させていく組織的な取組
- 5. 研究力強化の方針に基づく、研究者支援

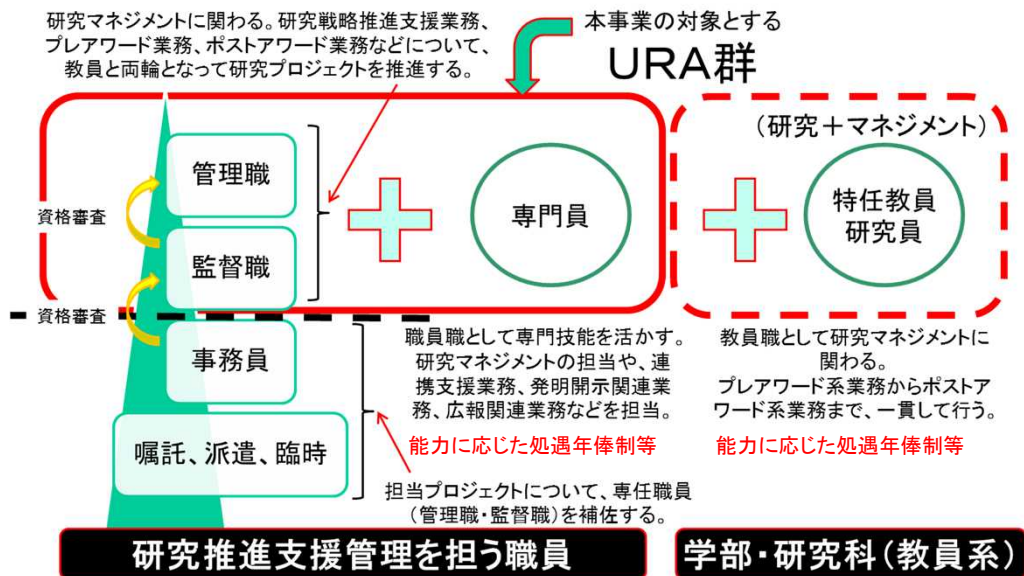


# 1. 人事制度改革や組織改編の実行



現在進行中の専任職員の人事給与制度改革を展開しつつ、外部資金による若手研究者育成(博士課程人材育成等、大学院改革)や教育資金・研究資金の一元管理までを視野に入れ、全学的な「学術研究推進支援組織(仮称)」に組織改編し、URA群を展開する事務体制整備を行う。能力に応じた処遇、年俸制度については、まず専門員について検証し、改革する。

## 2. 慶應義塾型URA群の体制整備

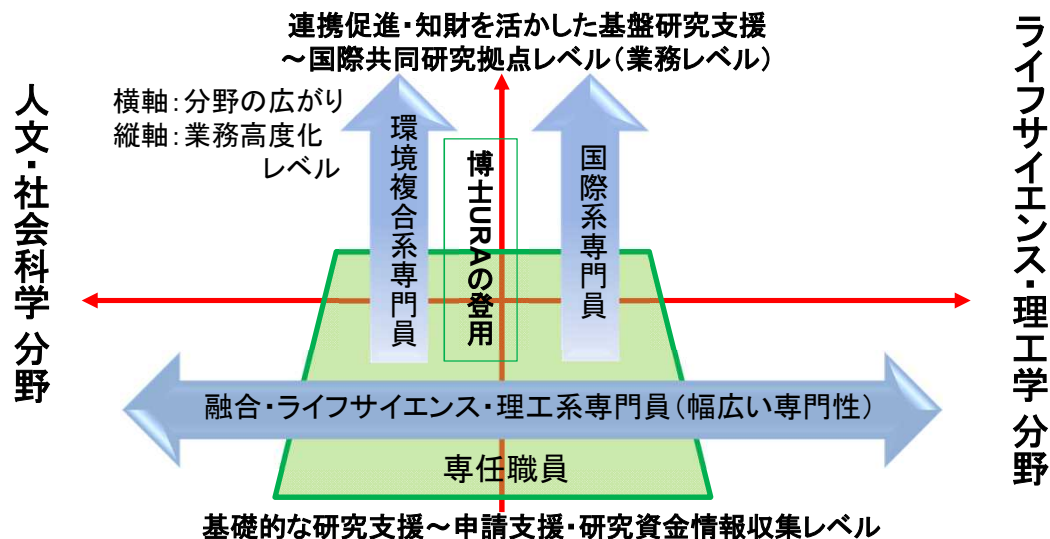


## 3. URA群の確保、育成と活用

No.	分野	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1	国際	国際連携研究展開・国際特許				
2	融合	学術研究融合(含 文理融合)				
3	理工系	材料・エネルギー				
4		システム・通信				
5	ライフサイエンス系	医工業連携				
6		知財・バイオベンチャー設立支援				
7		再生医療・最先端医療				
8		臨床応用・創薬				
9	環境・複合系	環境・複合・産学連携				

## 4. 個人的研究から国際連携を伴う拠点型共同研究へと発展させていく組織的な取組

- ・専門員URAと専任職員が協働して、業務の質の向上と支援対象を拡大させる
- ・博士URAの育成と輩出



## 5. 研究力強化の方針に基づく、研究者支援 (具体例)

- ・新開発資金管理システムの構築  
一> 事務処理の無駄を省き研究時間を確保
- ・若手・新任教員の研究力・キャリアUP  
一> 定期的なセミナー開催および継続的なサポート体制の構築
- ・学際領域促進のための研究フェアの定期開催  
一> 伝統的学術基盤の効果的な連携の促進
- ・URAの海外業務への新展開  
一> 国際共同研究さらにその連携組織の拠点形成の推進
- ・育児研究者(男女問わず)の支援制度の拡大  
一> 子育てをする若手研究者の包括的な支援制度の整備

等々



人事制度改革＋慶應義塾型URA組織の整備